



夏季特別展

Ceramics

セラミックス・ジャパン

Japan

陶磁器でたどる
日本のモダン

- 会 期 2016年 7月23日(土)～8月28日(日) ※会期中無休
- 会 場 石川県立歴史博物館 特別展示室 企画展示室
- 主 催 石川県立歴史博物館
- 共 催 北國新聞社
- 後 援 NHK金沢放送局・北陸放送・石川テレビ放送・テレビ金沢・北陸朝日放送・金沢ケーブルテレビネット・エフエム石川・ラジオかなざわ・ラジオこまつ・ラジオななお
- 開館時間 午前9時～午後5時(展示室入室は午後4時30分まで)
- 観 覧 料 〔特別展〕一般700円(560円)、大学生560円(450円)、高校生以下無料
〔特別展・常設展セット券〕一般800円、大学生640円
※()内は20名以上の団体料金

①結晶釉花瓶(部分) 石川県立工業学校 産業技術総合研究所蔵 ②上絵金彩鐘燧鈕香炉(部分) 成瀬誠志 個人蔵 ③上絵菊花図花瓶(部分) 井村彦次郎陶器店 個人蔵 ④上絵金彩蝶図紅茶セット(部分) 西浦圓治(五代) 個人蔵 ⑤釉下彩鯉図花瓶(部分) 石野龍山 個人蔵 ⑥八つ手レリーフ文花瓶(部分) 錦光山宗兵衛(七代) 岐阜県立多治見工業高等学校蔵 ⑦木菟形裝飾電燈具(部分) 陶磁器試験所 滋賀県窯業技術試験場蔵 ⑧帝国ホテルライト館洋食器(部分) 日本陶器/フランク・ロイド・ライト 個人蔵 ⑨日本館小皿(部分) 日本陶器/里見宗次 個人蔵

夏季特別展「セラミックス・ジャパン 陶磁器でたどる日本のモダン」 Ceramics Japan

日本の陶磁器はいつの時代も新たなデザインの探求のなかで発展を続けてきました。今回の展覧会は、日本近代陶磁の歩みをデザインの視点から、ものづくりの流れとして包括的にとらえた初めての試みです。当館を含めて全国4館で展示される巡回展で、基本となる陶磁器161件と関係資料に加え、石川会場（当館）では地元九谷関係資料17件もあわせて紹介します。また万国博覧会出品の花瓶、皇室ゆかりの調度品、後年人間国宝や日本芸術院会員として活躍した作家たちの若き日の仕事など、話題性のある作品も多数出品されます。100年以上前に世界の人びとを魅了した、まさに「クールジャパン」の原点ともいべき陶磁器デザインの素晴らしさや面白さを、ぜひお楽しみ下さい。

【当館以外の開催館】

- ・岐阜県現代陶芸美術館（多治見市）
5月21日（土）～7月10日（日）（終了）
- ・兵庫陶芸美術館（篠山市）
9月10日（土）～11月27日（日）
- ・渋谷区立松濤美術館（東京都）
12月13日（火）～1月29日（日）

【展示の構成】

I 近代化の歩み

- 万国博覧会と日本の出展
- ウィーン万国博覧会と輸出の嚆矢
- 上絵付の隆盛
- 輸出商社
- 明治前期の万国博覧会と内国勸業博覧会
- ジャポニスムの隆盛
- 温知図録
- 技術改良（ゴットフリート・ワグネル、機械制工業化、量産技術の革新、技術と特許）
- アール・ヌーヴォー（シカゴ・コロンプス世界博覧会、ビンダとアール・ヌーヴォー、1900年パリ万国博覧会、浅井忠とアール・ヌーヴォー、流布するアール・ヌーヴォー、日野厚）
- 農商務省図案及応用作品展覧会
- タイル
- 学校・試験研究機関（東京高等工業学校、陶磁器における実業学校の開校、京都市陶磁器試験場、東京工業試験所、地方の研究機関）

II 産地の動向

- 東京 ○横浜 ○名古屋 ○瀬戸 ○美濃
- 九谷 ○京都 ○兵庫 ○有田 ○その他の産地

III 発展・展開

- 表現主義
- 生活のなかへ（富本憲吉、河合卯之助、リーチと富本）
- 陶磁器試験所（国立陶磁器試験所、瀬戸試験場、日本趣味応用化、滋賀県信楽窯業試験場、岐阜県陶磁器試験場と加藤土師萌）
- 新興陶器（小森忍）
- アール・デコ
- 資生堂のデザイン活動
- デザイナー登場
- 新作民芸（吉田璋也とたくみ工芸店）
- 陶磁器メーカー（ディナーセット《セダン》と古田土貞治、日本陶器のデザイン、東洋陶器、名古屋製陶所、香蘭社、深川製

磁、大倉陶園、各地のメーカー、様々な用途、陶磁器輸出、工業用磁器の発展）

- 建築建材（建築装飾、タイル、東方文化研究所）
- 日用品への試み（石黒宗磨、新井謹也、河井寛次郎）

IV 終章

- 規格化・技術改革

《石川会場特設コーナー》

- 江沼九谷
- 能美九谷
- 金沢九谷
- 硬質陶器

【主な出品作品】

上絵金彩染付草花図花瓶（写真①）
アーレンス社 個人蔵

釉下彩遊禽図皿（写真②）
ゴットフリート・ワグネル 個人蔵

タイル（写真③）
淡陶株式会社、佐治タイル、佐藤化粧煉瓦ほか 個人蔵

新製マジョリカ額皿（写真④）
板谷波山 東京工業大学博物館蔵

結晶釉花瓶 石川県立工業学校 産業技術総合研究所蔵

上絵菊花図花瓶 井村彦次郎陶器店 個人蔵

釉下彩鯉図花瓶（写真⑤） 石野龍山 個人蔵

八つ手レリーフ文花瓶
錦光山宗兵衛（七代）岐阜県立多治見工業高等学校蔵

生命の樹（写真⑥）
バーナード・リーチ 京都国立近代美術館蔵

染付ばしょ模様コーヒーセット（写真⑦）
富本憲吉 京都国立近代美術館蔵

秩父宮邸陶器製装飾電燈台
陶磁器試験所 滋賀県信楽窯業技術試験場蔵

木菟形装飾電燈具
陶磁器試験所 滋賀県信楽窯業技術試験場蔵

帝国ホテルライト館洋食器（写真⑧）
日本陶器/フランク・ロイド・ライト 個人蔵

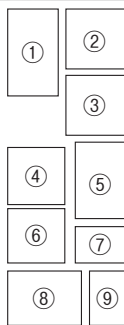
絵高麗注子
石黒宗磨 個人蔵（東京国立近代美術館工芸館寄託）

黒釉菱形花瓶 河井寛次郎 京都国立近代美術館蔵

日本館小皿 里見宗次/日本陶器 個人蔵

高圧碁子(写真⑨)

松風陶器合資会社 東京工業大学博物館蔵



■ 関連行事

・特別展記念講演会

「デザインありてこそー 焼物から窯業へ」

講師：森 仁史 氏 (本展監修者 金沢美術工芸大学
柳宗理記念デザイン研究所)

日時：7月30日(土) 午後1時30分～

会場：ワークショップルーム

定員：120名

※申込不要、当日先着順、聴講無料

・石川の歴史遺産セミナー

「金沢であえて[工芸]を問う」

日時：8月6日(土) 午後1時～

会場：ワークショップルーム

定員：80名

※要申込(電話)、聴講無料

・展示解説 ※(事前申込不要)

日時：8月7日(日) 担当：当館学芸員

8月27日(土) 担当：当館学芸員

いずれも午後1時30分～

会場：当館特別展示室・企画展示室

※申込不要、ただし特別展観覧料が必要

・ワークショップ ※①、②ともに事前申込制(往復葉書)

①「九谷焼絵付け体験」(小中学生対象)

日時：8月9日(火) 午後1時～

会場：ワークショップルーム

参加費：無料

定員：20名(保護者同伴可)

②「紅茶教室 一明治・大正・昭和

日本の紅茶をめぐる歴史物語ー」(一般対象)

講師：島田枝里氏

(紅茶教室「ティーアトリエ Silver Tips」主宰)

日時：8月16日(火) 午後2時～

会場：ほっとサロン

参加費：1,000円(お茶とお菓子付)

定員：20名

ワークショップ申込方法

往復葉書(申込者1名につき1通)に住所・氏名・電話番号・希望ワークショップ名を記入し歴史博物館まで郵送。申込締切 ①「九谷焼絵付け」8月2日(火) ②「紅茶教室」8月9日(火)(いずれも必着。申込者多数の場合は抽選)



ひきやま 金沢の曳山文化

曳山は祭りの華である。石川県内はむろん全国の主要な町の多くに曳山文化が伝わる。ただし、不思議なのが金沢の中心部である。あまたの有力商人や優れた職人がおりながら、今に伝わる豪華絢爛な曳山がない。金沢を祭りのない都市と評する人がいるが、そんな印象が生まれる一因はここにある。

ただし、もともと曳山文化がなかったわけではない。一時花開いたことがあった。とくに多くの曳山が出たのが盆正月。盆正月とは藩主家に吉事があった際、藩の命令により開催された祝賀イベントである。数日間休み日となり、金沢の町人たちは藩主家を祝うために出し物を催した。

曳山が盛んに出たのは19世紀前半。とくに多かったのが二の丸御殿完成を祝した文化6(1809)年である。このときの出し物一覧をみると、築舞台子供狂言、築山躍り、式舞台子供狂言、築舞台身振狂言、挽山子供狂言、船形挽山、挽山躍りなど約20件がみえる。

「子供狂言」は子供歌舞伎、「挽山」は車のついた移動式舞台、「築山」「築舞台」は設置式舞台をさそう。専門的な分類では芸の披露を主目的とする芸屋台にあたる。子供が主役になったのは、現在の子供歌舞伎のように愛らしい姿を目にしたかったからではない。あくまでも子供たちの真似事という建前で、規制が厳しかった歌舞伎を楽しもうとしたのである。

同時期、曳山は神社祭礼にも繰り出した。たとえば、文政元(1818)年9月の野町神明宮の祭礼に曳山と俄(仮装行列)が出ており、12代藩主斉広の長男・勝千代(齊泰)上覧のため城下をわざわざ巡行した。このときの曳山も芸屋台であろう。

まもなくして曳山文化は衰退していく。盆正月に出た「山」類の数を追うと、文政13(1830)年、弘化2(1845)年とも約4台。弘化2年の記録には「床踊り数知れず」とある。芸能は「山」類ではなく、簡素な舞台で演じることが中心となっていた。

曳山が発展をみなかった理由は、出し物の関心が歌舞伎から日常用具で縁起物を拵える「造り物」へ移ったことなどいろいろ想定できるが、大きな要因のひとつとして同じ加賀藩領の高岡の町人たちの批判があると思われる。高岡町人は利長ゆかりの御車山に誇りをもっていた。このため、それに似た曳山が他の町で出るときに停止をもとめてきた。金沢の曳山もその批判から逃れることはできなかった。文化8(1811)年の盆正月の際はあらかじめ豪華な曳山を出さないように町奉行から釘を刺されている。

しかし、金沢町人たちは巨大な曳山を練りまわす夢をあきらめたわけではなかった。別の形で具現化することとなる。とくに19世紀以降、現在、加賀獅子と呼ぶ巨大な獅子を城下の各町で競い合うように演じるようになる。加賀獅子は棒振りの所作から民俗芸能に分類されるが、麻布でできた巨大な胴体を練り廻しながら囃子を演奏する形態は芸屋台にひとしい。それは巨大なハリボテの曳山といえるかもしれない。

金沢で本物の曳山文化がふたたび花開くのは幕末。開花を予兆するかのように、慶応2(1866)年の盆正月には10町余りが築山をこしらえ、手踊り・浄瑠璃・新内・歌舞伎を披露。そして明治の前年、慶応3(1867)年に彫刻を懲らした豪華絢爛な曳山が造られる。兼六園にあった天満宮を卯辰山に遷座するにあわせ、各町が獅子や囃子、俄などを繰り出した。巡行した獅子は「数百」を数えたという。百万石祭りのパレードとは比較にならない規模の大行列が城下を練り歩いたのである。

このとき卯辰山の麓に位置した関係からか、木町(現東山)が菊慈童・西王母・宝船をモチーフとした三台の曳山を製作した。担当は一番丁が菊慈童、二番丁が西王母、三四番丁が宝船。規模は宝船がもっとも大きく、七福神の等身大人形が飾ってあった。ほかの2台は小ぶりで、太鼓を叩きながら歩く、いわゆる太鼓車(太鼓山)に類するものだった。

しかし、金沢の曳山文化は再び途絶えることとなる。明治前半、保管先の毘沙門(現・宇多須神社)の出火により西王母は焼失。宝船は飾りの龍頭のみが火中から救い出された。唯一焼失を免れた菊慈童の太鼓車は、現在、東山(旧木町)の倉庫に保管中である。龍頭はその後、神社拝殿の長押に飾ってあったが、部材ゆえ、その由緒はいつしか忘れられ、一部の住人が知るだけとなっていた。当館では金沢の曳山文化をひろく発信しようと、リニューアルを機に宇多須神社所蔵の「宝船型曳山の龍頭」を定期的に第2展示室「加賀能登の祭り」コーナーで公開することとなった。是非とも町人たちが夢みた曳山の遺産をご観覧いただきたい。



宝船型曳山の龍頭
金沢市 宇多須神社蔵
高さ90cm 奥行70cm

なお、ほかに金沢の曳山文化を伝える資料として金石の秋葉神社所蔵の絵額も定期的に同コーナーで展示している。製作は慶応2(1866)年。画題は御座船型の曳山。国内で同様のタイプの曳山は確認できず、実在した可能性は低い。絵でもいいから豪華な曳山を繰り出したい、そんな素朴な思いから奉納されたのだろう。実は、絵額に託した思いはその後実現する。現在、金石の夏季大祭には明治以降製作の17台の曳山が連なるが、なんと、うち1台は絵額を参考に大正15年に造られたものである。

※宝船型曳山の龍頭は第2展示室で8月28日(日)まで公開中

(学芸課長 大門 哲)

教育プログラム Educational Program

キャリア教育 ～職場体験を終えてみて～

キャリア教育の重要性が叫ばれているなか、インターンシップの一環として当館を訪れる生徒が増えてきました。そこで、今回は先日行われた兼六中学校の職場体験のようすをレポートしてみます。

1日目、男女2人ずつ、合計4名の中学生が本館を訪れました。午前中、職員から館内の案内を受けた後、本格的に仕事が始まりました。最初の仕事は、展示資料の確認です。一見簡単な作業のようですが、2時間近くの立ち仕事で彼らの顔には明らかに疲労感が見えはじめました。

2日目は、1日目とは異なり、座りながらの事務仕事からはじまりました。単純なパンフレットの仕分けでしたが、枚数が増えるごとにその大変さがわかってきたようでした。午後からは、当館学芸員の案内のもと、収蔵庫の見学、最終日の準備で1日が



パンフレット仕分け作業

終わりました。

3日目、最終日は、当館のパンフレットを置いてもらえるよう兼六園周辺の文化施設やホテルに出向きました。どこを回るか、どのよう

な順序で回るか、そして、どのように渡そうかなど、生徒同士で話し合いながら準備を進めていました。残念ながら、午前中は、小雨ということであまりよいコンディションではありません



パンフレット配布業務

せんでしたが、慣れない地図を見ながら町なかを歩き回っていました。しかし、現在位置がわからず反対方向に歩いていくなど様々なトラブルに見舞われながらも、周辺施設やホテルの方々に助けられ、何とかこなすことができたようでした。確かに、疲れたとは思いますが、博物館に戻ってきた彼らの顔は昨日までの顔と明らかに何か違っていました。何かを成し遂げた満足感で満ちあふれていました。この3日間で、彼らの何かが変わった



展示資料確認①



展示資料確認②

のです。

最後に、確かに、この職場体験を通して仕事をするの大変さはわかってもらえたと思います。しかし、それ以上に、常日頃、当たり前のように働いているご両親の苦労を少しでもわかってもらえればありがたいです。3日間、本当にお疲れ様でした。

(担当課長 永井 浩)

■ 催し物案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。

- 学芸員によるワンポイント解説(全10回) ※要観覧料,申込不要
毎月1回、金曜日に実施している展示解説。当館の学芸員が博物館のみどころを紹介します。
時間 13:30~14:00 場所 展示室
- れきはくゼミナール(全10回) ※受講無料、申込不要
毎月1回、土曜日に実施している博物館講座。当館の学芸員が独自のテーマを設定し講義します。
時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
- 古文書講座(前期・後期各3回) ※受講無料、要申込
当館の学芸員が古文書の読み方や内容を解説します。
時間 13:30~15:00 場所 ワークショップルーム
*前期分のお申込みには終了しました。後期分受講者は12月1日より募集予定です。

7月 ※7月の休館日 7/21(木)、7/22(金)

29日(金) 学芸員によるワンポイント解説
「高爪薬師と能登の山岳信仰」 学芸員 岡崎 道子

8月 ※8月の休館日 8/29(月)、8/30(火)

20日(土) れきはくゼミナール

「蔵宿と米仲買—加賀藩士困窮—」 資料課長 濱岡 伸也

25日(木) 古文書講座(前期第2回)

「出羽国酒田湊の本間さま?—北加賀廻船問屋奮闘記—」
資料課長 濱岡 伸也

26日(金) 学芸員によるワンポイント解説

「赤レンガ建物敷地内巡り」 普及課長 前田 武輝

9月 ※9月の休館日 9/15(木)、9/16(金)

10日(土) れきはくゼミナール

「中世荘園の興亡—加賀・能登の上賀茂神社領—」
学芸員 岡崎 道子

23日(金) 学芸員によるワンポイント解説

「能登の特殊神饌」 学芸主任 大井 理恵

29日(木) 古文書講座(前期第3回)

「出羽国酒田湊の本間さま?—北加賀廻船問屋奮闘記—」
資料課長 濱岡 伸也

トピックス Topics

リニューアルオープン1周年を迎えました!



子ども一日館長
金沢市立新野町小学校6年
たけはしひなな 高橋直樹くん、島崎瑞貴さん

リニューアルオープン1周年を記念し、「れきはくスペシャルデー」と題して4月29日(金・祝)に各種イベントを開催しました。まずは、「子ども一日館長」に任命された金沢市立新野町小学校の代表2名から来館者に記念品贈呈。無事1周年を迎えられたことに感謝の気持ちを込めて、一人ひとり手渡していただきました。

中庭では「ポニー乗馬」と「かごかつぎ」の体験、ワークショップルームでは「わくわくさん」でおなじみの久保田雅人さんによる工作ショーが行われました。



ポニー乗馬体験

また、リニューアルオープン1周年を記念した春季特別展



古墳の石棺組立パズル

「加賀・能登王墓の世界」では、石川県内の古墳から出土した副葬品などが展示され、休日には多彩なイベントが開催されました。

次回展覧会のお知らせ Upcoming Exhibition

石川県立歴史博物館開館30周年記念 平成28年度秋季特別展 「城下町金沢は大にぎわい!」

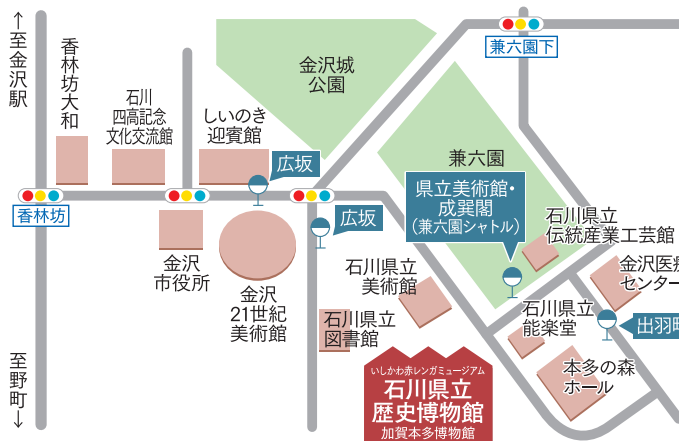
[会期] 平成28年 9月17日(土)～11月6日(日) ※会期中無休
前期: 9月17日(土)～10月10日(月・祝) 後期: 10月11日(火)～11月6日(日)

江戸時代、金沢は江戸・大阪・京都に次ぐ人口規模を誇り、百万石の大藩の城下町として栄えました。江戸時代の日記や絵画をひもとくと、当時の人々にとって祭礼や開帳が行われていた寺社や芝居小屋、料理屋などに集うことは大きな楽しみの一つだったことがうかがえます。本展では、貴重な文化財の数々をご覧いただくとともに、当時の史料から浮かびあがる城下町金沢のにぎわいの様相を再現展示などでご紹介します。

金沢城の鬼門の方角(北東)を守っていた卯辰山観音院の木造二天立像(金沢市指定文化財)や菅原道真を祀っていた小松天満宮の出開帳に関する史料、金沢歌舞伎の衣装や浄瑠璃人形など、初公開となる貴重な史料を展示します。



『流聞軒其方狂歌絵日記』(本館蔵)より
あわがきさき 葉ヶ崎の豪商・木屋藤右衛門の大船見物の図



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL : 076-262-3236 FAX : 076-262-1836
E-mail : rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
http://ishikawa-rekihaku.jp/

ガン保険

チューリッヒ生命
「終身ガン治療保険プレミアム」

通院治療が増加している時代の、画期的なガン保険

今、ガン保険にご加入されている方も、
ご加入されていない方も今すぐチェック!

0037-6001-64004

※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。恐れ入りますが携帯電話等でおかけください。
受付時間: 10時～19時(日曜定休) 広告有効期限: 2017年1月31日 募補16004-20160112
《募集代理店》株式会社ニュートン・フィナンシャル・コンサルティング 〒160-0022東京都新宿区新宿5-17-18 ZURICH

既にガン保険にご加入されている方に

追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 保険期間・保険料払込期間:終身

35歳男性 月払保険料 **1,500円**

43歳女性 月払保険料 **1,500円**

ガン保険にご加入されていない方に

- 主契約:放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
- 特約:ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除
- 保険期間・保険料払込期間:終身

自由設計プランで、ガンの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

40歳男性 月払保険料 **3,216円**

※記載の保険料は 2015年6月現在のものです。 ※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。